

経営体の概要

- 所在地:愛媛県西予市
- 栽培作物・地区:かんきつ類・三瓶町蔵貫地区等
- 実施主体:イノシシM.U.A組合
(檻管理者、地元の捕獲指導者、中山間集落協定関係者等によるイノシシ捕獲組織)

導入経緯

- 西予市蔵貫地区では、多様なかんきつ類を栽培をしているが、イノシシによる被害が深刻化。
- ① 急傾斜地等では、侵入防止柵の完璧な設置が困難で、イノシシは鉄筋柵の弱い部分等を狙って園地に侵入。
- ② 一度味を覚えたイノシシは、園地侵入を繰り返す。

導入技術

- ハンティングマスター(ICTを使用した大型捕獲檻)

【概要】

- ① 檻に設置したセンサーがイノシシを感知すると、捕獲従事者にメール送信。
- ② 捕獲従事者はスマートフォンやパソコンでライブ動画を確認。
- ③ ライブ動画を見ながら、最適なタイミングで檻の扉を閉め、イノシシを捕獲。

取組の特徴・効果

- H26年度に西予農業指導班が、三瓶町4Hクラブに働きかけ、大型捕獲檻に赤外線センサーによる自動トリガー装置を取付け捕獲実証を開始。
- 捕獲の様子を自動カメラで撮影したところ、警戒心の強い個体やまだ檻内に入っていなかった個体を多く獲りこぼしていることが判明。
- 獲り逃したイノシシは警戒心が高まり、檻に入りにくくなることも映像から判明。



- H27年度に県内のICT関連企業と連携し、ライブカメラを利用した大型捕獲檻の実証・改良を重ねた結果、「ハンティングマスター」として商品化され実用開始。
- H28年度には地元の捕獲指導者等で組織する「イノシシM.U.A組合」を設立。檻の管理を含む捕獲活動を開始。



- 群れごとの確実な捕獲が可能となり、近隣園地の被害が軽減。市内、他地区へも普及。



写真1 遠隔監視型捕獲システムの設置状況



写真2 ライブカメラによる捕獲直前の映像(5頭)